

2012年度 大震災復興政策プロジェクト 第2回責任者連絡会議 議事録

日 時：2012年4月19日（木）18時～20時

場 所：研究所会議室

出席者：松丸（責任者）、坂庭、鈴木、辻村（以上委員）、市村、越智、庭野、村松（以上委員兼事務局） 9名中8名出席

資 料：「大震災復興政策プロジェクト責任者連絡会議」「別紙資料」

議事および決定事項：

※資料に基づきより事務局より報告、提案を行なった。内容は資料参照。

(1) 各部会から第1回会議（2月2日）以降の経過と今後の予定について報告を行った。

(2) 本プロジェクトのまとめ方について検討し、次の点を確認した。

- ・総論的なテーマ、三部会を貫くテーマとして、「新成長戦略」の内容、動向を復興事業などと関連づけて取り上げる。
- ・まとめの構成のイメージは、実態の分析、問題点の摘出、政策提言。
- ・各部会は、総論的テーマとかかわらせて、まとめる内容の根拠、裏づけをきちんと示すために、被災者・被災地に何が起きているのか実態をよくつかむ。
- ・政策提言は、実態から導き出し、根拠を明確にし、説得力あるものにする。
- ・報告書の対象は限定しない。行政や諸団体など広く社会に発信していく。行政に提出するようとする。

なお、検討の過程で出た主な意見は下記の通り。

- ・政府は、国立公園と国定公園の地熱発電所の建設を進めようとしている。環境省も、国立公園内での地熱発電の一部開発を容認、条件付きで「垂直掘」も認めるようだ。パイロットケースの地域として福島県があがっている。東京に電力を供給するために作るのではないか。福島で消費するのか。どう議論していけばよいのか。公共部会で扱ってほしい。
- ・原発と同じように、（上記の）地熱発電のケースも立地地域を単なる供給地と位置づけている。これからエネルギー供給は小分散型だと思うが、地熱発電でも大規模にやろうとしていて原発の時と同じ構造がよみとれる。
- ・原発にかわるエネルギーとして地熱発電があがれば、それは受け入れられるだろうが、大規模な開発には問題が多々ある。エネルギー問題の対立的構造が見えにくくなる。
- ・阪神・淡路大震災の時以上の「創造的復興」。組合にとっては闘い方を考える必要がある。

(3) 次回責任者連絡会議を7月11日（水）14時から行なうこと、次回をもって責任者連絡会議を終わらせる予定であること、を確認した。